

◆総評

回を重ねるごとに作品応募者が多くなっております。今年度は77名の応募者、210作品が集まりました。誠にありがとうございます。今年はスマホで撮られた作品もありました。画像を残す手段が多様化してきておりスマホで写された作品も記録という面から歓迎したいと考えています。

今年度は写真を撮るときの視点が多岐に渡ってきていると感じます。神輿を担ぐ人達の豊かな表情、水掛の光景を、光を感じさせながら人物の豊かな表情、子供達の楽しんでいる光景、ちょっと一休みをしている光景、賑やかな祭りの光景を写し撮った作品、祭り全体を見たときにどの視点で写すとより効果的な作品につながるか良く考えて写していることが伝わってくる作品が多くなってきております。ピントが甘い作品も見られました。ピントがシャープな作品は作者の想いが伝わりますので常にシャープになるように写して行きます。

◆作品講評

最優秀賞 「祭り一番」 君塚 義美 様



迫力のある作品です。祭りの力強さが良く伝わっている作品です。

望遠レンズの特性は圧縮効果と賑やかさを出すのに使うことが大事になります。離れたところから望遠レンズで絞りを絞って写されていますので全体的にピントがくる作品につながられました。祭りの賑やかさを引き出しながら迫力のある作品につながられました。

作品を見たときにすぐに目に留まった作品でした。自分の想いが出るように思い切ってフレーミングされたことが良かったです。水掛祭りの光景、人物の豊かな表情、迫力ある作品につながられました。良く祭りの事を知って撮影に臨まれたと推察いたします。

優秀賞

「神輿襲う水柱」

中根 英治 様



右側にポイントになるあどけなさが残る少女をうまく利用して水掛祭りの一旦を上手に写し撮られました。

バケツから出た神事の水を効果的に利用しながら見事に写し撮りました。高速シャッタースピードにより水の流れの瞬間を静止画として写し撮った作品です。

また神輿を担ぐ人達と神輿全体が入るようにその瞬間を見事にカメラに収

められました。広角レンズの使用により画面に遠近感を引き出しながら祭り全体の雰囲気を出すことにも成功しています。

優秀賞

「エンジョイ神事」

松本 隆信 様

自分にも水が掛かりながらの撮影と思われませんが、前面にこの男性の見事な表情と両手を広げて、いかにも祭りを盛り上げている姿が写し撮られました。祭りと一体となって写している姿勢がこの作品につながりました。この男性の良い瞬間を写し撮りました。右足が上がり、両手を大きく広げた瞬間を写したことで画面に動きを感じさせる作品にもつながっています。

スナップは早撮りと言われています。一瞬を逃すことなく低い位置から写されたことがこの作品につながりました。



優秀賞 「祭りの華」 木村 茂男 様



神輿を担ぐ光景を力強く情感豊かに写し撮った作品です。祭りの賑やかさ、楽しさを、迫力を引き出した作品でもあります。先頭で神輿を担いでいる人にポイントを絞って写したことで作者の意図が良く感じられ、見る側も気持ちを揺さぶり心にしみる作品につながりました。左足が上がった、膝が曲がった瞬間を写し撮りましたので作品に動きを感じる作品にもなりました。静止画の中に動きを感じさせることも作品作りに置いては大事なことのひとつです。

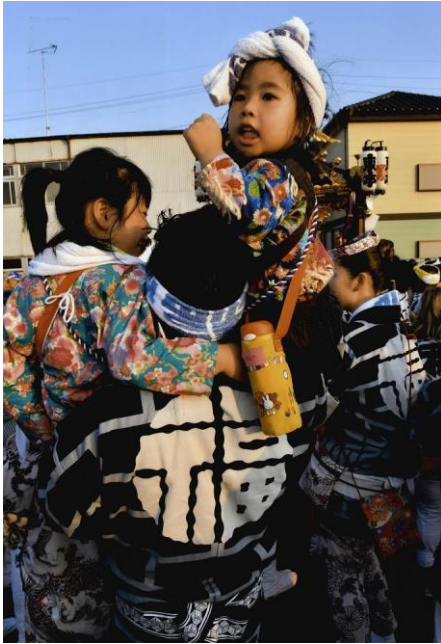
優秀賞 「熱気高まる」 長山 勇一 様

神輿を全員で押し上げ、持ち上げている瞬間を写し撮った作品です。

画面全体から受ける印象は、神輿を担ぐ人達の心が一つになり、神輿から厳かな神聖な雰囲気を引き出す作品につながっています。神聖な神輿を持ち上げている手の美しさとたくましさを出しながら、全員の気持ちが一体となっている姿もよく伝わってきます。神聖な神輿の背景にある厳かさを引き出すような作品でもあります。被写体を良く観察しながら写している姿勢が伝わってきます。



優秀賞 「ガッツ一番」 新田 幸雄 様



子供から大人まで参加している祭りの姿を子供にポイントを絞り写し撮りました。タオルで鉢巻きをきりっと絞り、勇ましさを引き出しています。

作品作りでは何を写したいかが作品から良く伝わってくるのが大切です。大人に担がれた子供も盛り上がりながら参加している姿が良く伝わってきます。市民参加の祭りでもあることを教えている作品につながっています。

入選 「待ち遠しい」 片平 行弘 様

今か今かと神輿が来るのを縁台に座りながら静かに待っている光景です。賑やかさや力強さを感じる作品ではありませんが、うまく子供を入れながら年配の人達が静かに待っている光景を確かなフレーミングで写し撮りました。作品作りではいかに空間をどう作っていくかが大事になります。空間に意味を持たせることも大事になります。空間は間でもあります。被写体によってはこの間が、空間が大事になります。適度な空間を作って写し撮られました。賑やかさや迫力ある作品作りに目が行きがちになりますが、いろんな視点から写すことで全体像が見えてきます。



入選 「降りかかる水」 青柳 幹市 様

清めの水が降りかかっている瞬間を、高速シャッターを利用しながら美しく、光を感じさせる作品にしています。良い瞬間を写し撮っているのですが画面がややおとなしくなっていました。もっとポイントを絞り込んでいくのがいいようです。

スナップ作品は後でトリミングして思いが伝わるようにしてもいいでしょう。スナップ撮影時にフレーミングを、思いが叶うようには撮れませんので後でトリミングをしてもいいでしょう。右上の窓枠？や左下のボケたところなどは必要ないようです。



入選 「頭から足まで」 松下 光見 様



ずぶ濡れになり肌にぴったりと張り付いた布の表情を写し撮り、祭りのひとつの特徴を引き出した作品です。たくましい体をした男性の仁王立ちのような姿にひかれる作品です。良いポイントに目を付けられました。広角レンズで近づいてややローアングルから写していることで手前の男性の姿を誇張させることにもつながりました。

作品作りでは作品から訴えることがより出来る、何かを感じさせることが出来る、物語が生まれる作品は評価が高くなります。

入選 「伝統を守り続けて」 石毛 忠男 様

一斉に清めの水を掛けた瞬間をタイミングよく写し撮りました。この瞬間を待つて写しています。目で確認できないシャッタースピードを利用して写して行くことも作品作りでは大事なことのひとつです。



神輿を担ぐ人達や、後ろには別の神輿を入れながらの脇役として働かせた画面創り良かったです。シャッタースピードがやや遅かったようです。もっと高速で写して水の表情や神聖な神輿の姿を美しく見せるようにします。

入選 「熱気」 椎名 昭一 様

良いタイミングで神輿を担ぐ人達の表情や水が掛かる瞬間をタイミングよく写し撮りました。シャッタースピードもちょうど良いシャッタースピードで撮っています。また気負いなくシャッターを切っていることが伝わる作品です。水が舞う姿も綺麗に撮れた作品です。

作品を見ながら何かアピールする強いポイントがやや足りないのか、物足りなさを感じます。心を騒がせる何かがあると感じます。ベテランカメラマンと視察いたしますがもっと訴えるものが画面から欲しい作品です。

左下に担ぐ人の良い表情が居るのですが作品を見るときに画面の中心から周辺に目がいきますのでそこにやや惜しいところがあるように感じます。左の二人がより中心近くにいるとより印象が大きく変わってきそうです。



入選 「晴れの日」 滑方 芳江 様

神輿台に乗り出発の音頭を取っている男性を画面いっぱい収めて写し撮りました。しっかりとポイントを絞った作品作りは良かったです。フラッシュによる効果も出ています。目にもキャッチライトがうまれ生き生きとした人物として写すことが出来ました。

シャッターのタイミングも良いのですが人物から何か訴えるものが不足しています。動きが欲しい感じもしますし、フラッシュの光量が強いようで人物がフラットになったようです。フラッシュの光量を落とすのもっと自然さが出るように写して行くことでより思いが出てきそうです。でも良いタイミングで写されました。



入選 「夢のはな棒」 君塚 敏江 様



祭りに参加している女性を画面いっぱいに入れて、女性の祭りに参加している気持ちが出るように写し撮っています。

扇子を持ちながら喜びを感じながらの参加なのでしょう。良いタイミングで写されているのですがこの女性との会話が・・・カメラマンとの結びつきがやや薄いようです。写すときに被写体と会話をしながら話が通じるように、

気持ちがつながるように、良い表情を引き出すようにしながら写すともっと素敵な作品につながったようです。

入選 「祭り嬉しや楽しや」 渡邊 良一 様

しっかりと神輿の行進を見ながら、神輿を担ぐ人達の表情が良い時を狙ってタイミング良く写し撮った印象的な作品につなげました。

神輿を担ぐ男衆の喜びにあふれた姿に引き込まれてしまいます。カメラマンと一体となって写した作品になっております。

右側でカメラを見ている人の表情が特に印象的です。この作品をより効果的に見せる脇役としての働きをしています。

まもなくクライマックスなのでしょうか、今日の終わりになる・・・そんな空気感を感じとることが出来ている作品です。



入選 「祭娘」 北村 芳夫 様

参加している女性のたくましさや喜びが爆発している。そんな一瞬を写し撮った



作品で思わず引き込まれる作品です。良い瞬間を逃さずに写し撮られました。

祭りに参加したくてたまらない、そんな女性軍団のようにも見えます。この人たちがいるおかげで祭りが盛り上がっているようにも作品から感じ取れます。

写した被写体の外にあるであろう姿や光景が分かるように想像させることが出来ている作品でもあります。

入選 「淑女変身」 菊地 一夫 様



鉢巻きをきりっと締めて祭りの衣装を着て神輿を担いでいる姿は勇ましいです。そんな一端を思い切ってアップで写し撮った作品です。何を写したいかが良く分かるフレーミングにして写し撮った作品です。作品作りに置いて何を写すことが出来ているかが大事になります。

ただ一人でも良いので祭りに参加してとても嬉しい！そんな表情が入ると

もっとインパクトのある作品につながったでしょう。声を掛けながら写して行きたいところです。



◆審査委員長プロフィール

氏名：大坪信二

略歴：1944年山梨県生まれ。

1962年日本光学工業株式会社（現(株)ニコン）入社。広島、大阪、オランダに2回、イギリスに駐在。

2001年ニコンカメラ販売(株)（現(株)ニコンイメージングジャパン）に出向。ニコン塾（現ニコンカレッジ）講師。

2004年定年退職。

現在はフォトカルチャー講師、写真グループ指導、生涯学習センター講師、写真の通信添削を行っている。

写真ジャンル：ネイチャーフォト、祭りが中心

写真展：2001年7月「テムズ川の休日」ニコンサロン bis、2006年10月「村の絆」ニコンサロン bis ほかグループ展多数

